

日バス協業第142号

平成29年 5月 8日

各都道府県バス協会 会長 殿

公益社団法人 日本バス協会
会長代行 島 倉 秀 市

地域間幹線系統等における生産性向上について

平素より当協会の運営に関して格別なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、国土交通省自動車局長より、地域間幹線系統等における生産性向上について、別紙のとおり通達がありました。

これは、近年地域間幹線系統の赤字額が拡大しているが、これをできる限り抑制する必要があるとの観点からの取組であり、今年度以降、都道府県協議会等において策定する生活交通確保維持改善計画において、生産性向上の取組み（具体事例については別添資料も参照）を検討し計画に盛り込むよう、運輸局より指導および助言を受けることとなります。特に地域間幹線補助申請予定事業者については、対応に遺漏なきようお願いします。

つきましては、貴協会において、その旨了知されるとともに、貴協会傘下会員に対し周知方よろしくお願いいたします。

1. 添付書類

- (1) 地域間幹線系統等における生産性向上について（国自旅第40号の2）
- (2) 路線バスの生産性向上の取組事例

（問合せ先）

業務部 佐藤・松浦

電話：03-3216-4014



国自旅第40号の2
平成29年4月28日

公益社団法人 日本バス協会会長 殿

国土交通省自動車局長



地域間幹線系統等における生産性向上について

貴協会傘下のバス事業者の皆様が、近年の人口減少局面における厳しい経営環境の下で、地域の公共交通機関の中核として、住民や来訪者の足を確保していただいていることに、改めて敬意を表します。

国土交通省としても、そのようなバス事業者の方々の努力を支えるべく、最大限の支援をしているところですが、近年、地域間幹線系統等においては赤字額の増加が続いており、このまま推移すると、地方部を中心に必要不可欠な路線の維持すら困難となることが懸念されます。

持続可能な地域公共交通ネットワークの形成のためには、バス事業の生産性向上の取組が不可欠であり、具体的には、バス事業者が、都道府県や市町村と連携を図りつつ、需要に見合った路線の見直し、観光需要の取込み、貨客混載等、地域の実情に応じた多様な取組を検討・実施することが求められます。

つきましては、傘下会員団体及びバス事業者に対して、生産性向上に向けた検討・調整を早急に進めるよう、要請願います。

国土交通省としては、これまで地域間幹線系統確保維持補助金について最優先課題として必要額を確保してきたところであり、今後とも上記の取組を前提に必要額を確保すべく最大限努力して参ります。また、地方運輸局等を通じ、生産性向上の取組事例の提供や助言指導などの支援を行って参りますので、是非御活用いただきたいと思います。

本件については、各地方運輸局長及び沖縄総合事務局長あて、別添のとおり通知していることを申し添えます。

(別添)

国 総 支 第 1 1 号
国 自 旅 第 4 0 号
平成 2 9 年 4 月 2 8 日

各地方運輸局長 }
沖縄総合事務局長 } あて 単名各通

総合政策局長

自動車局長

地域間幹線系統等における生産性向上について

今後の人口減少が見込まれる中で、特に地方部の乗合バスの赤字は拡大しており、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成のためには、乗合バス事業の生産性向上の取組が不可欠である。地方運輸局等においては、交通政策部門と自動車交通部門が連携し、下記について、積極的に対応するとともに、関係地方公共団体、関係団体及びバス事業者に周知されたい。

また、本件については、公益社団法人日本バス協会会長あて、別添のとおり通知したので申し添える。

記

1. 都道府県協議会等において生活交通確保維持改善計画を策定するにあたり、地域の実情に応じて、補助対象系統における生産性向上の取組（別添事例参照）の検討を促すとともに、その検討に積極的に参加し、検討結果として以下の事項を計画に盛り込むよう指導するものとする。
 - ・ 生産性向上の取組
 - ・ 営業収入増や補助系統の収支改善の数値目標（KPI）
 - ・ 取組スケジュール等
2. 計画の提出期限は、6月末までとなっているが、検討の進捗状況により期限までに提出が困難な場合は、8月末までの提出を求めるものとする。

なお、計画提出後においても生産性向上の取組の検討が行われ、新たな取組を実施すること等により、計画の変更が必要な場合は、適宜、変更計画の提出を指導するものとする。
3. 計画に盛り込まれた生産性向上の取組の実施状況を適宜把握し、必要な助言指導に努めるものとする。

路線バスの生産性向上の取組事例

自動車局
平成29年4月

【事例1】貨客混載の取組(宮崎県)

- 高齢化や過疎化による乗客数の減少などから、バス路線網の維持が困難になるケースが増えてきている。
- 物流業界においてもドライバー不足が顕在化しており、物流の効率化が求められている。
- このため、旅客運送事業者と貨物運送事業者、旅客運送事業者と地方自治体等が相互連携を図り、「バス路線の生産性向上」と「物流の効率化」を実現するために、**路線バスを活用した宅急便輸送「貨客混載」**に取り組んでいる。

宮崎県の事例

取組内容

- **宮崎交通**と**ヤマト運輸**が連携。(H27年10月開始)
- バス車両の**中央部座席を減らし**荷台スペースとして確保。
- 荷台スペースには専用ボックスを搭載し、その中に宅急便を入れて輸送。
- ローカル線のバスで輸送 **1日1便輸送**。

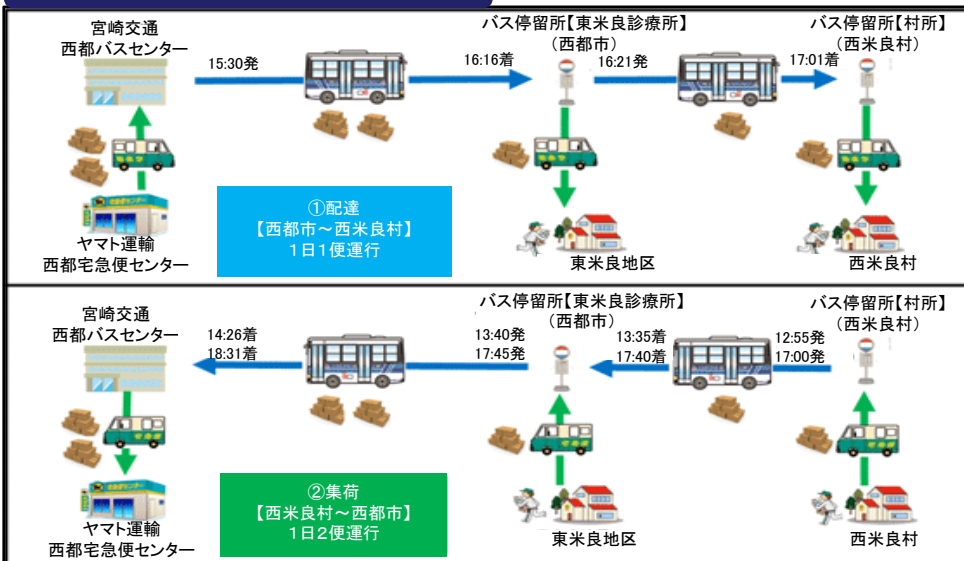
【バス車両】



【専用荷台スペース】



運行形態



【効果】

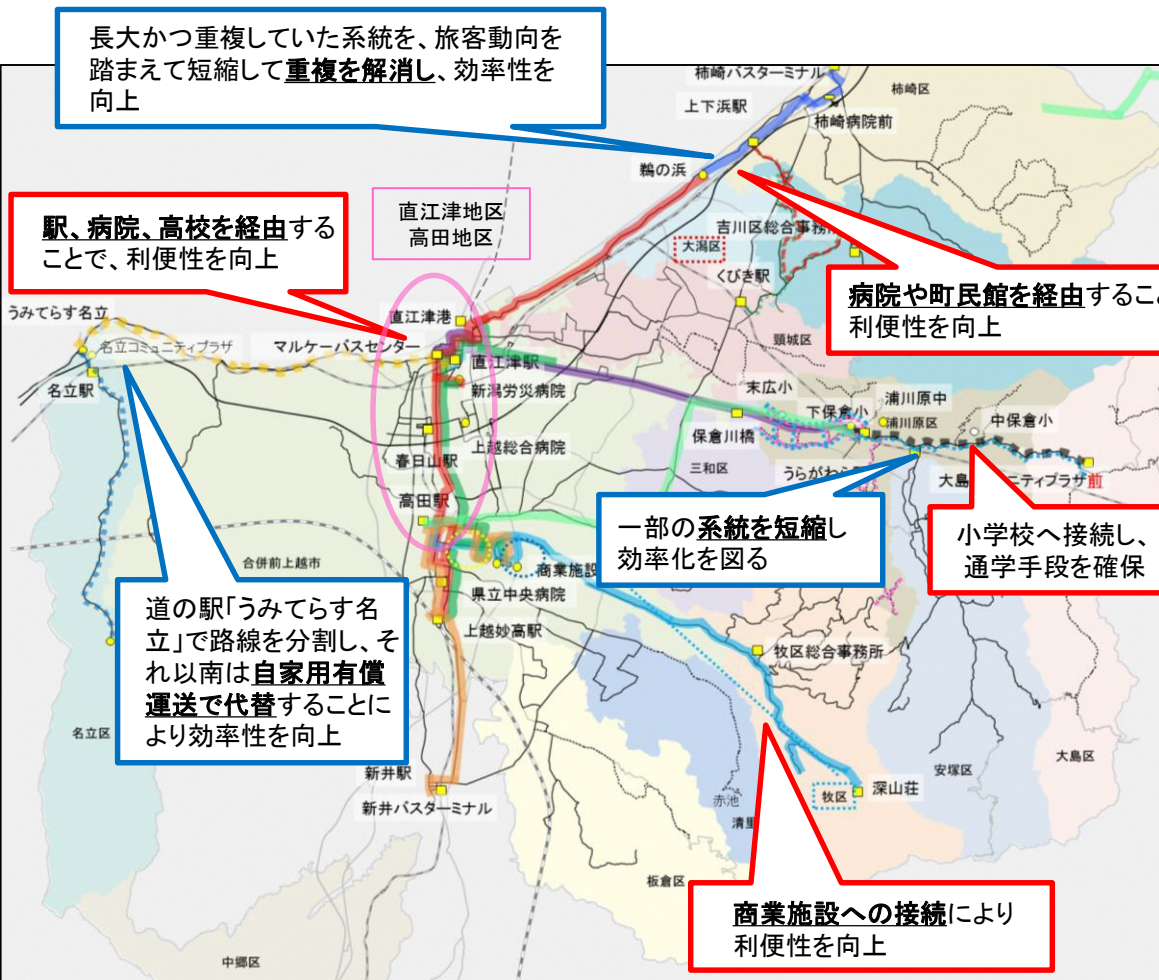
1路線で年間 200万円～500万円の増収

＜他地域における取組事例＞

- 左記事例と同事例。
 - ・岩手県北自動車(岩手県)、名士バス・士別軌道・十勝バス(北海道)、産交バス(熊本県)
- 高速バス車両のトランクに保冷コンテナを設置し、市内の農家の朝採り野菜等を道の駅に集約し、高速バスにて東京まで週2回輸送(常陸太田市と連携)。
 - ・茨城交通(茨城県常陸太田市)
- 高速バス車両のトランクなどの既存の設備を活用し、地産品を首都圏のJR東日本物流の拠点に輸送。
 - ・JR東日本物流・JRバス東北・東北鉄道運輸の3社で設立した「地域活性化物流LLP」による事業(青森県・福島県)

【事例2】バス路線の再編(新潟県上越市)

- 「上越市都市マスタープラン」に示されている、各拠点が相互に連携した、持続可能な都市構造の実現にむけた **まちづくりと連携**
- 中心地域より各方面へ伸びる幹線路線及び支線路線について、**利便性**及び**効率性**の観点から網羅的に見直し



- ◆ 路線を商業施設や公共施設へ接続
- ◆ 支線部分では、長大路線を短縮するほか、**デマンド交通**や**自家用有償運送**への変更も含め、多様な交通モードで役割分担



- ◆ 中心地域(直江津地区・高田地区)の利便性向上、支線における**需要の取り込み**
- ◆ 支線の**効率化**

計画認定時点での算出(平成28年9月)

- ・ 運行コストの抑制(年間で15,700千円)

※再編する路線の数値



地域公共交通網の持続性の向上

【効果】
自家用有償運送で代替した場合、
運送単価が約3割削減

【事例3】路線バスへの混乗化(茨城県常陸太田市)

- 公共施設等が集積する常陸太田地区への持続可能な移動手段を確保するため、民間事業者への路線の統合を図り、効率的で一体的な交通サービスの提供を実現

背景・課題

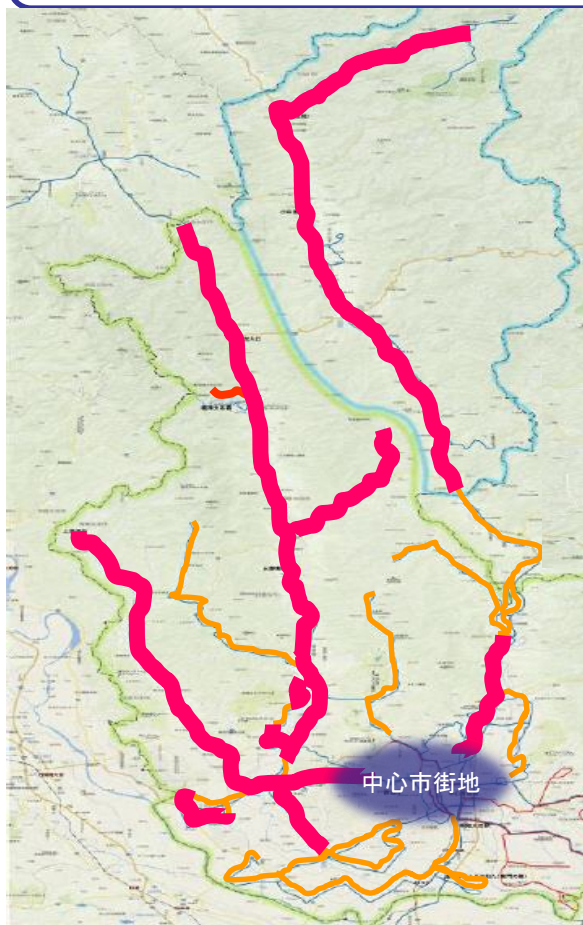
- ✓ 路線バス、コミュニティバス(市民バス)、無料通院バス、スクールバスが同じ路線を重複して運行
- ✓ 運行日(週1~7日)、ダイヤ・本数、運賃体系(距離制、200円均一、無料)の棲み分けがなされておらず、非効率な運行

具体的な事業

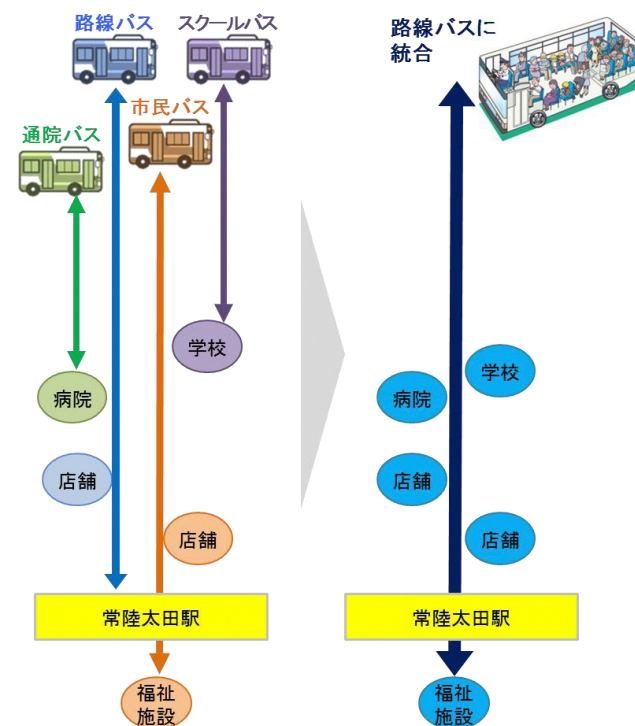
- ◆ 路線バス以外のバスを廃止し、路線バスに統合
- ◆ 運行日を毎日(平日)とし、ダイヤ・本数も調整
- ◆ 運賃体系も分かりやすい3段階制に変更(200円、300円、500円)

【効果】

輸送人員の増加に伴う増収



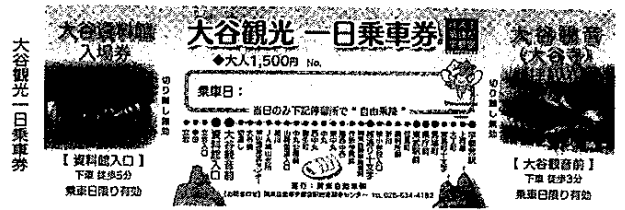
- 路線バス・市民バス・みどり号が重複していた路線
- 路線バス・市民バスが重複していた路線



- 大谷地区の観光振興と路線バスの利用促進
- バス往復代金(JR宇都宮駅～大谷(立岩)間乗降自由)
＋大谷資料館入場料＋大谷観音拝観料がセット
- 発売日:2014年7月18日
- 累計販売枚数:18,728枚(2017年3月末日現在)

下野新聞 2014年8月20日

大谷観光 バスで満喫



乗降自由、入場料など… 割安

観光振興局が市内を運行するバスの企画乗車券が発売されたのは初めて。料金は大人でバス往復代金(宇都宮駅～大谷(立岩)間)が乗降自由で、大谷資料館の入場料などセットで大人1,500円と割安。駅の観光案内所で販売している。とても人気を博している。

7月18日の販売開始から1カ月がたち、目標を上回るペースの約700枚が売れた。関東自動車は「予想以上に反響はいい」と手応えを感じている。県外の客から「JR宇都宮の観光案内所などで、一日乗車券や周遊券はないかと聞かれることがこれまで多く、市観光局は「客に手配してあげたい」と考えている。

バスの企画乗車券の販売は昨年限定された市観光振興局に譲り渡され、課題となっていた。市内の周遊バス「おきな」の一日乗車券の導入なども検討されている。

11月30日まで販売。同社宇都宮駅前定期券センターと、同社の宇都宮観光案内所で取り扱っている。問い合わせは同社観光バス部へ028-634-8133。

宇都宮市と関東自が企画

宇都宮市と大谷地区の観光振興と路線バスの利用促進を狙い、関東自動車と市観光局が共同企画して発売した乗車券「大谷観光一日乗車券」が目標を上回るペースで売れるなど好評だ。JR宇都宮駅と大谷(立岩)間が乗り降り自由で、大谷資料館の入場料などセットで大人1,500円と割安。駅の観光案内所で販売している。とても人気を博している。

一日乗車券 大人1,500円 好評

バスで愉快だ宇都宮

大谷観光一日乗車券

UTSUNOMIYA

「これ1枚で」もっと大谷が楽しくなる、お得なバスチケット!

「路線バスで大谷にでかけてみよう!」

関東自動車の運行する路線バスの「JR宇都宮駅⇔大谷(立岩)間」を1日乗り降り自由!

更に大谷資料館と大谷観音(大谷寺)の入場・拝観券がついてるお得な乗車券です。

見所たくさん!「石の里」大谷。

宇都宮市の北西部に位置し、特産品である「大谷石」の産地「石の里」大谷には、地下に広がる東京ドーム大の巨大空間「大谷資料館」や日本最古の石仏「大谷観音」(大谷寺)があり、他にも奇形の花や、高さ27mの平利観音。大谷石でものづくり体験が出来る施設など、ここで大谷の魅力を満喫できるスポットです。また市内中心部には下野一の歌「二重山神社」、大谷造りの「松が峰教会」、宇都宮のアンテナショップ「宮カフェ」、ご存知「宇都宮餃子」のテーマパーク「来っせ」等の見所がたくさんございます。この乗車券を活用して宇都宮を満喫して下さい!

【大谷観光一日乗車券】を使えば、大谷をもっと「お得に★楽しく」観光できちゃいます!

◆バス往復代金 JR宇都宮駅⇔資料館入口 大人900円

◆大谷資料館の入場料 大人700円

◆大谷観音(大谷寺)の拝観料 大人300円

通常合計1,900円が400円もお得!

大谷観光一日乗車券なら 大人1,500円! (中学生1,000円、小学生500円)

「これ1枚で」ぜ～んぶ楽しめちゃいます♪

さらに乗車券の裏面にもお得な情報が!? まずはチラシ裏面を✓チェック!

関東バス 発車時刻表

JR宇都宮駅～板通り十字の間の臨時バスが運行しておりますので、何處も乗降するのに便利です。

大谷方面	停発所:「大谷・立岩」行きにこ乗車下さい。	大谷資料館 大谷観音(大谷寺)入口まで	約30分	平成26年7月11日現在						
JR宇都宮駅西口(6番乗車)	7:55	8:10	9:20	10:05	10:45	11:25	12:35	13:25	14:15	14:50
宇都宮駅市街地方面	停発所	大谷地区 南	東武宇都宮駅南まで	約20分	JR宇都宮駅南まで	約30分				
資料館入口	11:12	11:42	12:27	13:17	14:22	15:17	15:42	16:47	17:22	
大谷観音前	11:13	11:43	12:28	13:18	14:23	15:18	15:43	16:48	17:23	

【乗車券 販売箇所・販売時間】										
■関東自動車宇都宮駅前定期券センター (JR宇都宮駅西口より徒歩1分、チサンホテル南)										
平日 7:30～19:00 日曜 9:00～17:30 土曜 8:00～18:00 TEL 028-634-4182										
■宇都宮観光案内所 (JR宇都宮駅構内 改札口前)										
9:00～15:00 (乗車券販売時間)										

【効果】
年間の輸送人員が約13,500人増加(発売前年度比12%増)、これに伴う増収

4